

新型コロナウイルスワクチン 特集号

No. 257 R3. 4. 15 発行 如春会 浦田医院

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種
いよいよ始まります！



◆ワクチンの種類

「生ワクチン」（おたふくかぜワクチン、麻疹・風疹ワクチンなど）、「不活化ワクチン」（インフルエンザワクチンなど）がよく知られていますが、今回日本で接種が始まる新型コロナウイルスのワクチンはファイザー製の「mRNA ワクチン」という種類のワクチンです。

ワクチンの種類	有効成分	ワクチン接種による感染のリスク
生ワクチン	弱毒化したウイルス	わずかにある
不活化ワクチン	感染能力を持たない病原ウイルス、病原ウイルスの一部	ない
ウイルスベクターワクチン	病原ウイルスの遺伝子の一部	ない
mRNA ワクチン	病原ウイルスの遺伝子の一部	ない

今回、ワクチンの開発までの期間がとても短かったことに不安がある方もいらっしゃるかもしれませんが、これは、遺伝子解析の技術が以前とは比べものにならないほど進んだことが理由としてあげられ、製剤の際、生物学的成分を使用していないことも特徴です。

◆予防接種のリスクと安全性

ワクチンの安全性は、その病気を発症した場合のリスクと、ワクチンの副反応のリスクを天秤にかけて考えます。

【ワクチン接種のメリット】

- ・治療法のない、または治療法はあるが重篤になる危険性がある感染症に対して、発症、感染、重症化を防ぐことができる可能性がある
- ・集団接種することで感染の流行を抑えることができる

【ワクチン接種のデメリット】

- ・ワクチンによってアナフィラキシーを含め、副反応がおこる可能性がある

新型コロナウイルス感染症の特徴は、

- ① 発症前から感染させる力がある
- ② 無症状でも感染させる可能性がある
- ③ 重症化する可能性がある
- ④ 後遺症が残る可能性がある

などで、感染しない・させないためには、今の自粛生活を継続し続けなければならないこととなります。現在、確立した治療方法がないため、感染拡大を防ぎ、経済活動、社会生活をふつうに送るための方法は、唯一、「ワクチンによる集団免疫の獲得」と考えられます。そのためには、集団全体の接種率がかぎりなく上がる必要があります。皆様のご協力をお願い致します。

◆どんな副反応があるのか？

副反応は、免疫反応が体内で起きていることの証明として現れます。日本で最初に接種が始まったファイザー製のワクチン（コミナティ）について、日本国内で2回の接種を終えた1万9000人あまりについての副反応をまとめています（厚生労働省、2021年4月9日）。

症状	1回目接種後	2回目接種後
接種部位の痛み	92.9%	92.4%
倦怠感	23.2%	69.3%
頭痛	21.2%	53.6%
37.5℃以上の発熱	3.3%	38.1%

接種部位の痛みは翌日に感じる人が多かったということです。発熱も翌日に多く、翌日にはほとんどが下熱したとのことです。若い世代で発熱や倦怠感の頻度が上がる傾向がありますが、重いアレルギー反応（アナフィラキシー）については、2021年4月4日までに79件が該当した（1例 / 約14000件）とのことです。ほぼ全員が軽快しています。

アナフィラキシーは、そのほとんどが接種後30分以内に起きます。万が一、アナフィラキシーがおきてもすぐに適切な対応や治療を受けることができる様に、接種場所での待機をお願いしています。一方、接種に際し、接種することへの不安が引き金になって、めまいや過呼吸などの症状が出ることもありますので、不安を感じる方は接種前にご相談ください。

◆副反応の救済制度

国は、副反応に関する救済制度も設けています。ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合、予防接種法に基づいて医療費や障害年金の給付といった救済が受けられ、新型コロナウイルスのワクチンを受けた人も対象となります。ワクチン接種後に何か違和感を感じたら、まずは接種した医療機関にご相談ください。



スムーズに接種が行えるよう、
みなさまのご協力を
何卒よろしくお願いいたします。

参考：「新型コロナワクチン接種は不安？安全性・危険性の考え方」清益功浩医師

「ワクチン Q&A by NHK」

「新型コロナワクチンの仕組みと効果について」日米で診療にあたる医師ら10人が総力回答！新型コロナワクチン Q&A100 より

文責：管理栄養士 金柿

監修：浦田章子 M.D.